



第39巻 第6号

史学・地理学・考古学

思想史特集

ワキジデスの史学について原 随 園 (1)

隱 逸 ——東晋時代——村 上 嘉 実 (21)

教行信証 (坂東本) について赤 松 俊 秀 (40)

中世思想史における天地創造説の位置辻 田 右 左 男 (67)

都鄙問答の成立柴 田 実 (95)

——石田梅岩の心学の諸典拠について——

草創期の京都の蘭学について山 本 四 郎 (113)

オーレル・シュタイン岡 崎 敬 (138)

——東西交渉史におけるかれの業績——

百年戦争とフランス民族の形成 (下).....川 口 博 (150)

——ノルマンディにおける支配と抵抗をめぐって——

シンポジウム

史学・地理学・考古学戦後十年の回顧と今後の課題 (163)

——史学研究会特別例会記事——

書評と紹介

前川貞次郎：フランス革命史研究西 井 克 巳 (169)

学界消息

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

告 白

一、日本学術会議第四期会員選挙に際して候補者推薦の件

本年十二月十日に行われる日本学術会議第四期会員選挙に際して、史学研究会は、評議員宮崎市定氏（全国区）を推薦候補者とする事になりました。会員の皆様にこの旨お知らせいたします。

一、史学研究会大会開催の件

左の日程で本会及び読史会・東洋史談話会・西洋史読書会・地理学談話会連合大会を開催いたしますので、多数御参加下さるよう御案内申し上げます。

○十一月一日（木） 見 学 飛鳥地方（藤原京址・飛鳥寺・岡寺・石舞立）

○十一月二日（金） 大会及び総会（会務報告）京大楽友会館

庄園図の歴史地理的考察

米 倉 二 郎 氏

中国の土地所有と均田制

田 村 実 造 氏

——とくに始源の問題を中心として——

纏文式文化論

山 内 清 男 氏

懇 親 会 京大楽友会館

○十一月三日（祝） 読史会・東洋史談話会・西洋史読書会・地理学談話会各大会及び晩餐会
詳細なプログラムは同封しました。

会 員 各 位

史 学 研 究 会

③ 広川は銅版面についてかなりの知識と技術とを有していた。詳しくは西村貞「広川癖著蘭療藥解の銅版面について」(日本銅版面志三三五-四四頁)参照。

④ 富士川、医学史五三三-四頁参照、その解屍と「解体発露」については「明治前日本医学史」参照。本文の記載中、その評価については同書によつた。

⑤ 他に鮎沢新太郎「西村遠里の万国夢物語」(歴史、昭一七・六)および「銷国時代における海外知識」等参照。

むすび

本稿の概略は過日の読史会例会で発表したものである。

その際、小石元俊の思惟の革新性、ないし進歩性について質問を受けた。おそらく蘭学といへば、戦後とくに問題にされがちな、封建社会内における反(あるいは非)封建的な思想、または封建社会の崩壊に対応する上部構造としての思想の変化が興味の対象となるであろう。したがつてこの点は一層掘り下げるべきであつたかも知れないが、本稿においてもかゝる質問に充分の解答を与えうる内容はもはやなかつた。これは筆者の不明にもよるが、反面にはまだ個別研究が十分進まず、また草創期をとりあつた段階にすぎないので、全期を叙述し終つてから、全般的な史論

にとりかゝることゝしたい。このため、史料保存家の公開を切望する次第である。

終りに、貴重な家蔵書翰集を快くみせて頂いた小石秀夫氏、書翰読解に御教示を得た羽倉敬尚氏に深甚の謝意を表すると共に、「富士川文庫」によつて後進にのこされた故富士川博士の無限の学恩を感謝する次第である。

(一九五六・七・一七稿了)

新入会員(入会順)

大脇保彦

二宮正道

藤縄謙三

中村幹雄

住吉商業高校

永田英正

上原栄子

早稲田大学
歴史学研究会

水木直節

大阪市住吉区南加賀屋町五五九

東京都新宿区戸塚町一丁目

早稲田大学文連内

係の豊富な資料が得られたことが著しい。古墳の發掘は戦後目ざましいものがあるが、中でも古式古墳の調査が進み、構造あるいは遺物の副葬状態についての知見が増した。例えば福岡県一貴山、大阪

府黄金塚、紫金山、三重県石山等の諸古墳があげられる。寺趾関係では奈良県西大寺、飛鳥寺、興福寺などが組織的に調査され、その遺構が明かになった。

(坪井清足)

万葉集に見える夜の船出

熱田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎいでな

(八)

万葉集巻一に見える額田王の有名な歌であるが、何故に夜船出をしたのであろうか。潮の都合かと考えられるが、それだけなら潮汐の干満は一日二回あるのだから日中満潮の時を利用した方が便利であろう。何かの事情で偶然船出が夜になったのかも知れないが、天平八年の遣新羅使の歌を載せた万葉集巻十五にも夜の船出を語るものが二つある。即ち

(1) 月よみの光を清み神島のいそまの浦ゆ船出すわれは

(三五九九)

(2) 従長門浦船出之夜、仰觀月光二作歌三首(三六二一—三六

二四の歌の前書、歌は省略す)

であって、夜の船出が単なる偶然ではなく、当時の航海における一般的な方法であったように思われるのである。それは瀬戸内海に特

有な陸風海風を利用するために起った航海術ではないであろうか。風間は陸の方が海より強く熱せられるために海より陸へ風が吹き、夜は逆に陸より海へ吹く。船出を容易にするためには海に向って吹くこの夜の風を利用すればよい訳である。ブチャー著「ギリシヤ文化の特質」(諸角克夫氏訳)によれば、ホメロスの中にもエーゲ海に起る陸風海風を利用して、夜船出する場面の描写があると言う。もとより帆を使わずに櫓に頼る小船は別であるが、右に挙げた諸例の場合は何れも当時としては大船であろうから、帆を張っていたに違ひなく風の向きは無視できない筈である。こうして陸風利用の船出と見ることによって、これらの歌の理解も一層深まるのではなからうか。特に額田王の歌は、月光の下、銀波をくたく満潮を前にして船装いになった軍船のくろぐろと居ならぶ静中動の一瞬を捉えた名歌として古今に喧伝されるが、膚寒く吹き過ぎる夜風を受けいっばいに張った帆と、風に鳴る帆綱の音とを想像する時、この歌の味わいは画龍点睛を得るものと思う。

(K・N)

れていない」と強く自負しうるような、極めて明快な論理と整然たる体系をもつ大著「フランス革命史研究——史学史的考察——」を世に問われるにいたつたことは、ただただ敬服のほかに、教示されるところ、また多大

なるものがあつた。歴史を志す者ことごとくの必読の書として、敢えて推薦して已まな

い。(A5、三四九頁、他に、まえがき、参考文献、人名索引、定価七百円、創文社)

——西井克己——

会 報

京都大学文学部創設五十周年記念特別例会及び十二月例会の予定は次の通りです。多数の御参会をお待ちしております。

一、京大文学部創設五十周年記念特別例会

日 時 十一月二十四日(土)午後一時
場 所 京大法経第六教室

日本史 雑戸の労役について
東洋史 六朝時代の社会と宗教
西洋史 小ブリニウスのビテイニア総督としての使命に就て
地理学 礪波の散村
考古学 飛騨高地の縄文式石器について

名 大 澄田 正一氏
名 大 宮川 尚志氏
名 大 水川 温二氏
名 大 村松 繁樹氏
名 大 岡山 大 福尾猛市郎氏
名 大 廣島 大 福尾猛市郎氏

日 時 十二月一日(土)午後一時
場 所 京大文学部第八教室

明代中期の北方政策
ホルスの諸像
近時出土の中国古銅器について

名 大 萩原 淳平氏
名 大 加藤 一朗氏
名 大 岡田芳三郎氏

執筆紹介

原 随園 京都大学教授
村上嘉実 滋賀短期大学教授
赤松俊秀 京都大学教授
辻田右左男 奈良女子大学教授
柴田 実 京都大学教授
山本四郎 華頂女子高校教諭
岡崎 敬 京都大学人文科学研究所助手
川口 博 京都大学大学院学生
西井克己 会沢大学教授

学界消息

史学研究會關係

例会 十月六日(土)午後一時 楽友會館
中国における終末思想 兼子 秀利
春鑑抄・三徳抄及び彝倫抄について 今中 寛司

堺市における小売商店街とその商圏
——衛星都市の性格について—— 位野木寿一

国史關係

説史會九月例会 九月八日(土)午後一時 陳列館内
開港と地方商人 有泉 貞夫
封建都市の起源 松山 宏

東洋史關係

東洋史談話會例会 十月四日(木)午後二時 笠沙 雅章
中国禪宗の地方發展
東洋史談話會例会 十月十八日(土)午後二時 伊藤 道治
中国古代史学の現状とその見通しについて

西洋史關係

西洋史読書會例会 九月二十九日(土) 堀井 敏夫
午後一時 京大西洋史研究室
サン・シモン及びサン・シモニア
における諸觀念の變化

J. B. Pratt, Expansionists of 1898

三木 雅文

地理學關係

人文地理學會第十七回例会 九月二十九日(土) 大阪商業大學
伏見酒造業の歴史地理的考察 末尾 至行
和歌山県における柑橘栽培の変遷 岡本 啓志
アメリカにおけるニグロの分布について 今村新太郎

考古學關係

香川県三豊郡詫間町・紫雲出遺跡の調査
昨年十二月の第一回調査にひきつづいて八月二十日より九月一日まで京大考古学教室
小林行雄講師ほか教室員が参加した。昨年度のトレンチの両側に発掘区劃をひろげた結果、住居關係の遺構と思われる四×五米と三×二・五米の二つの方形の石積の区劃が発見された。

考古学談話會例会

九月二十九日(土)
八月二十三日付で文学博士の学位を得られた京大有光教一助教授の祝賀を兼ねて本年度第三回例会を開いた。参会者二十名。同氏の朝鮮の磨製石劍の形式及びその分布と意義について講演があつた。

梅原名譽教授の渡台

中国国民政府の招聘を受け十月十四日羽田出発。本年は台湾大學で講義し來春歸國の予定。

編集後記

史林発刊の順調な歩みに加え、各巻の最後を飾る特集号もこれで三回を数えることとなった。會員諸兄姉の御支援のほどをまます深謝しなければならぬのである。特集号はたえず新しい視角から新しい問題を扱えていくことを意図したものであり、幸いにして編集委員の微意を汲んで頂ければと思う。なお最後に本号に永年理事長として本誌の発展につくされた原隨園教授の御近業をえたことを欣懐とし、他の諸業績とともに御説了を願うものである。
〔お知らせ〕 會員には本号を百円で頒ちました。

(越智)

史林 (第三九巻 第六号)

一九五六年十月二十五日印刷
一九五六年十一月一日発行

定価二百円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京大文学部内

印刷所

中村印刷株式会社

理事 振替京部五一五五番
編輯主任 原 随園
赤松俊秀

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXIX NO. 6

Sep. 1956

CONTENTS

Studies on the History of Ideas

- Historical Ideas of ThucycidesZ. Hara (1)
Hermit Life (*In-itsu* 隱逸) of Tung Chin (東晉) Period
.....Y. Murakami (21)
A Study on Bandobon (坂東本) of Kyogyoshinsho (教行信証)
.....T. Akamatsu (40)
Creation Theory in the History of Medieval Thought
.....U. Tsujita (67)
The Formation of Tohimondo (都鄙問答)M. Shibata (85)
—An Essay on the Literary Sources of Shingaku (心学)
of Baigan Ishida—
Rangaku (蘭学) of Kyoto at its Earler Stage
.....S. Yamamoto (113)
Aurel SteinT. Okazaki (138)
—His Achievements in the Oriental Studies—
Hundred Year's War and the Making of French Nation (Ⅱ)
.....H. Kawaguchi (150)
—A Study on the Regime and the Resistance in Normandy—
Symposium: A Retrospect on the Post-war Studies in
Historical Sciences

Book Reviews & News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan